

地球流体電脳倶楽部 L^AT_EX2_ε 用クラス version 7 (Nicole)
dennou777.cls

ひとみさん

2019 年 4 月 16 日

Dennou6.sty のマニュアルより

Dennou6 \LaTeX スタイルは, \LaTeX を用いた, マニュアル, 論文等の作成に便利な, マクロ定義 スタイルファイル集である.

dennou777.cls version 7.0 (Nicole) は開発版であり、**未完成です**。それゆえ、このドキュメントも未完成です。開発の協力は常に歓迎しています。GitHub リポジトリは、<https://github.com/Hitomi-San/dennou777> です。

目次

第 1 章	インストール	1
第 2 章	Dennou6.sty との相違点	1
2.1	クラスファイルとして提供されるようになった	2
2.1.1	クラスオプション	2
2.1.2	Lua \LaTeX や up \LaTeX に対応した	3
2.2	graphicx と xcolor の自動読み込み	3
2.3	削除した機能	3
2.3.1	D6graphicx	3

第 1 章 インストール

2019 年 4 月 16 日現在の dennou777.cls version 7.0 (Nicole) の動作に必要なファイルは、dennou777.cls、d777helper.sty、そして Dennnou6.sty に付属するファイル (GitHub リポジトリでは、d6styles の配下にある) 一式である。これらのファイル (とこのドキュメント) を「 \TeX から見える位置」に配置することで、インストールは完了する。

第 2 章 Dennou6.sty との相違点

前身である Dennnou6.sty (以下 Version 6) との相違点を述べる。これは、dennou777.cls version 7.0 (Nicole) (以下 Nicole) が開発段階であるため、dennou6.sty の利用者に積極的に利用してもらい、不具合を取り除いたり、機能を追加したりするのを、迅速に行いたいためである。

Listing 2.1 最小のソース

```

1 \documentclass{dennou777}
2 \begin{document}
3 Happy, \TeX ing は猫である。
4 \end{document}

```

Nicole は、Version 6 で提供されていた主なマクロがそのまま使えるように配慮されている（開発者から見て、使用が推奨できないマクロは除く）。したがって、以下に示すとおりにプリアンブルを書き換えるだけで、以前の T_EX ソースをコンパイルできるようになるはずである。

不具合を発見したり、機能改修の要望があれば、是非 GitHub に issue として投げて頂きたい。

2.1 クラスファイルとして提供されるようになった

Nicole はクラスファイル (.cls) として提供される。これは、Version 6 のマクロ集が、全てスタイルファイル (.sty) として提供されていたことと対称的である。

クラスファイルとして提供されるので、Version 6 を使っていた文書で Nicole を読み込むためには、`\documentclass` で `dennou777` を読み込み（必要に応じてクラスオプションも書き換え^{*1}）、`\usepackage{Dennou6}` を削除するだけで、基本的に動くはずである^{*2}。

`dennou777.cls` は `jlreq`^{*3} をベースに開発している。したがって、以前の `jreport.cls` を読み込んで、`dennou6.sty` を読み込む方法とは、組版の結果が変わる。

2.1.1 クラスオプション

先述の通り、`jlreq` をベースに開発しているので、`jlreq` に渡すことのできるオプションはすべて受け付ける。すなわち、`jlreq` のドキュメント^{*4}を読んでもらいたいのだが、Version 6 から Nicole に移行するにあたって、特に必要そうなオプションを以下に挙げる。

paper `paper=a4` で紙面のサイズが A4 版になる。a4 以外にも、a0 から a10、b0 から b10 などが指定できる。

jafontsize `jafontsize=12pt` で和文のフォントサイズが 12 pt になる。

report `jreport` 相当のクラスとなる。

book `jbook` 相当のクラスとなる。

*1 2.1.1 節を参照すること。

*2 従来プリアンブルに書かれていた、「章を変えるときに改ページをしない」ためのコードなどがあると、エラーが発生する。なお、章見出しは成り行きで表示されるように、クラスファイル内で再定義してある

*3 <https://github.com/abenori/jlreq>

*4 ターミナル上で `texdoc jlreq` を実行すると読むことができる。

すなわち、

```
\documentclass[a4j,12pt]{jreport}
```

という宣言があるファイルは、その宣言を

```
\documentclass[paper=a4,jfontsize=12pt,report]{dennou777}
```

と書き換えることによって（そして `\usepackage{Dennou6}` を削除すると）、Nicole を適用させることができる。

2.1.2 \LuaTeX や \upTeX に対応した

`jlreq` が \LuaTeX や \upTeX に対応しているように、Nicole は \LuaTeX や \upTeX に対応している。`.tex` ソースを一切書き換えることなく、 \pTeX 、 \upTeX 、 \LuaTeX のいずれでも処理ができる文書を作ることができる。なお、 \pTeX や \upTeX で処理をする場合、`dvi` ウェアには `dvipdfmx` を用いる前提となっている。

2.2 `graphicx` と `xcolor` の自動読み込み

ソースを書き換えずに3つのエンジンで処理が可能になるようにするため、Nicole は処理をするエンジンを自動判定して、 \pTeX か \upTeX で処理をしていると判断した場合、`dvipdfmx` オプションをつけて `graphicx` パッケージと `xcolor` パッケージを読み込む。したがって、Nicole のオプションには（例え `dvi` ウェアに `dvipdfmx` を使用するとしても）、**`dvipdfmx` オプションをつける必要はない**^{*5}。

2.3 削除した機能

Version 6 が提供していた機能のうち、`outdated` な機能は削除した。

2.3.1 `D6graphicx`

今どき `PostScript` ファイルを直接埋め込む需要がないだろうし、内部で `graphicx` を（変なオプションをつけて）読み込んでいるので、すべて削除した。

`D6graphicx` に相当する機能は、`graphicx` のマクロを直接利用したり、`TikZ` を利用するなどして扱うべきである。

*5 むしろ、`dvipdfmx` オプションをつけると、その文書を \LuaTeX で処理すると（当然だが）正常に処理ができない。